

第二言語リスニング時の予測と統合： 文字×音声のマルチモーダル入力が もたらす学習効果



講師：梶浦真由美 准教授
名古屋市立大学 大学院
人間文化研究科人間の成長と発達分野

日時：2025年10月29日（水）17：00～
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us06web.zoom.us/j/89761747910>

ミーティング ID: 897 6174 7910 パスコード: 20251029



第二言語のリスニングは、耳から入る音声を受動的に処理する営みではなく、学習者が脳内に蓄積した知識を活用して次に来る語や意味を予測し、入力音声情報と統合する動的な過程です。したがって、リスニング能力の向上には、この「予測」と「統合」を効果的に支援する学習方法が重要となります。近年、映画の字幕に代表されるように、文字と音声を同時に提示するマルチモーダル入力は学習促進に役立つと報告されています。しかし、同時提示は注意が分散し、認知的負荷を高める可能性も指摘されています。この点を踏まえ、本発表では、5日間の集中英語リスニングトレーニングを通じて、順次提示（読んでから聴く）と同時提示（聴きながら読む）が学習に及ぼす影響を、行動指標と脳活動計測（fMRI）のデータに基づいて検証します。さらに、同時提示条件における日本人学習者と英語母語話者の眼球運動を比較し、提示速度や読解速度の個人差が処理に与える影響を明らかにします。最後に、順次提示と同時提示の学習効果を総合的に比較し、それぞれの特徴と相対的な利点を示し、効果的な英語リスニング指導法について考察します。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）
TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp